



介護技術研修の取り組み

くらし係 宮崎広太

「動き出しはご本人から」

介護をする上で最も大切にしている心構えです。



生活のハリ

ご自身で行動できることが日々の充実感につながります



生活の実感

自ら動くことで「生活している」という実感が生まれます



生活の幅

できることが増えると本人の可能性が広がります



介護量の軽減

職員の負担軽減にもつながります



CHAPTER 1

これまでの歩み

従来の取り組み方法

01

対象者の選定

各グループから対象者をあげ、委員会メンバーやユニットスタッフに実践してもらいました

02

アドバイスの実施

お客様への関わり方について助言を行いました

03

先生からの助言

実践した職員がさらに向上できるよう大堀先生から助言をいただきました

04

振り返り・共有

振り返りの時間で実施内容を委員会メンバーで情報共有しました



CHAPTER 2

直面した壁

年々対象者が
あげにくくなってきた

ユニットの状況悪化

介助量の増加

「待つ」ことやお客様自身の「動き」に気づくことが難しくなりました

熟練職員の退職

上手にできていた職員が退職し、実施してきた意味が残った職員に伝わり切っていませんでした



動き出しの取り組みの停滞

• 応用活用の不足

スタッフやお客様の入れ替わりにより、対象者以外への応用ができていませんでした

• 伝達の困難

委員会メンバーからのポイントを職員に伝えることも難しい状況でした

• 実践の後退

以前はトイレや移乗時に立位保持やベッドでの端座位保持を行っていましたが取り組みが難しくなりました



アセスメント（見方）の変化

守りのケアへの傾倒

新しいお客様の入居に伴い、「無理しなくてもよい」という雰囲気が広がり、リスク回避が優先されるようになりました。

発信しにくい状況に。

伝えてきたことが十分に理解されるまでには至りませんでした。



CHAPTER 3
転換点

今年度の新たな取り組み

研修方法を変え、「動き出し」の基礎から学び直す取り組みを始めました。

なぜ基礎から学び直すのか

「待つ」こと

まずはお客様にやってみてもらうこと

先入観を持たない

固定概念を排除し、可能性を見出すこと

大堀先生の講義

直接の講義で意識を高めること

- 新人・経験の浅い職員・看護職員等が学ぶことで、慈恵園の取り組みを理解してもらう狙いがありました。

新しい研修の進め方

毎月第3月曜日（14:00～16:00）に実施。
受講人数は3～4人、同じメンバーで3か月間取り組み。
石田係長と宮崎で調整を担当。



1回目
講義と演習



2回目
お客様で実践し動画撮影。講義前後の変化を客観的に確認



3回目
総まとめ。目の前で実際に確認し合う

実施してみて感じたこと



講義＋演習の効果

先生から直接講義を受け、演習でできることが大切だと実感しました。
説明もわかりやすいです

自身の課題

先生に任せきりになっていた面があり、研修後に自分なりのアドバイスができればよかったと感じました

3か月の妥当性

講義・演習・実践の流れを考えると、一人が受ける期間として3か月が適切でした

研修参加職員へアンケートの実施

アンケート内容

1. 「動き出しはご本人から」を意識した移乗介助を実践していますか？
2. できている具体的な場面を教えてください。
3. 研修前と比べて、お客様の「動き出し」を待つようになりましたか？
4. 声掛けの仕方は変わりましたか？
5. 以前より抱える介助は減りましたか？
6. ユニット内で介助方法は統一されてきましたか？
7. 実践できない理由があれば教えてください。

1.「動き出しはご本人から」を意識した移乗介助を実践していますか？	ほぼ毎回できている 1	意識しているが難しい時もある 7	あまりできていない 0	ほとんどできていない 0		
3.研修前と比べて、お客様の「動き出し」を待つようになりましたか？	できている 2	まあまあできている 5	たまにできている 1	あまりできていない 0	全然できていない 0	
4.声掛けの仕方は変わりましたか？	大きく変わった 3	少し変わった 5	変わらない 0			
5.以前より抱える介助は減りましたか？	減った 3	変わらない 5	増えた 0			
6.ユニット内で介助方法は統一されてきましたか？	統一されてきた 3	まだばらつきがある 5				
7.実践できない理由があれば教えてください（複数回答可）	忙しい 4	人手不足 4	周囲が従来方法 1	自信がない 0	忘れてしまう 2	その他 1

2.できている具体的な場面を教えてください。

- ・起き上がりの場面や立ち上がりの場面でできていることが多い。
- ・立ち上がりを待ったり、靴を脱いでいただいたり様々な場面で待てるようになりました。
- ・声をかけてから相手がどのような反応をするのかどう動きは始めるのか待つように意識して関わるようにしている。
- ・その人に合わせた声掛けができるようになり、以前よりスムーズに介助ができていると思う。



2.できている具体的な場面を教えてください。

- ・声掛けを行い、目線や顔の動きを意識することで時間はかかるが一人ひとりに合った移乗ができたことです。
- ・ベッド～車いすの移乗、車いす～椅子への座り替え、トイレ介助時、着替え介助時など
少し待ったり相手が動きやすいように少し離れるようにしています（忙しいと忘れてしまいがちです…）

・未回答 2名



次年度に向けて

今後の展望

研修後のアドバイスを継続的に行い、**理解度を深めていきたい**と考えています。

「動き出しはご本人から」の関わりを全職員が実践できるよう、基礎の定着と応用力の向上を目指します。